



研究部会報告

●政策問題●

●第16回

日時：昭和63年7月30日(土) 14:00~17:00

場所：三菱総研401会議室 出席者：13名

テーマと講師：情報通信ニュービジネスの企業化について(新会社の設立とその後の変遷) 藤川 博巳(東京テレビガイド)

激しい生存競争に曝されている情報通信分野での新事業展開を実践されている体験談を話され、そこから5つの教訓を提示された。①資本金は大きいほど良い ②端末は設置してもらっただけでも相当の理由が必要 ③スポンサー探しは、やればできる ④実績が次の展開に有利 ⑤トップの器が成否を決める

●第17回

日時：8月28日(日) 15:00~翌10:00

場所：箱根町宮ノ下 国家公務員寮 出席者：19名

テーマと講師：「経済・経営データの時系列分析とその応用」白石典義(国際経済大)「トップの意思決定…第二次大戦前の海軍首脳」湊晋 平(松山商大)「部会の進め方」(全員)

恒例の夏季合宿、折からの不順な気候の中を両日とも天候に恵まれ、新人4名を交えて談論風発、最終就寝は午前3時を回ったとか、白石氏は時系列分析の初歩的考え方から出発して、計量経済モデルの膨大さに対して、少変数の多変量時系列モデルが現実社会によりマッチしている事例など経済・経営分野での研究現況を解説された。

湊氏は昭和14年8月ヨーロッパで始まった第二次大戦にわが国が日独伊三国同盟(昭15.9)締結から参戦に至る道程で、海軍内の勝組がいかにして部内に人的開戦環境を作り上げたかを概観し、トップの明確な意思決定能力とそのための組織づくりの大切さを訴えられるとともに、今日でも見られる秀才官僚の保身政策の弊を強調された。

翌朝食後は主査から部会の1年半の活動状況を報告、部会テーマ「日本はどうなる、今何をなすべきか」の取組み計画に対し、会員から具体的な手続手法が複数提案

され、今後手法研究を兼ねて実践的に応用してゆくこととした。

●動的計画法●

日時：8月30日(火) 18:00~20:00 場所：日科技連

出席者：6名 テーマと講師：第3回ベルマン・コンチニウムに参加して 岩本誠一(九州大学)

第1回、第2回はアメリカで開催されたベルマン・コンチニウムであったが、第3回はフランス、紺碧海岸ソフィアアンティポリスで6月13日、14日に行なわれた。量子力学へのDPの応用を試みているブラッケル教授が主催したので異色のシンポジウムとなったが、それでも世界各国より30件程の発表が寄せられた。主なセッションは次のとおりであった。

1.(A)確率と量子システム、(B)経済のモデルと政策 2. 生態のモデルと政策 3.(A)量子力学過程の制御、(B)不確定動的システム 4. 生物システムの制御政策 等。

●情報ネットワーク●

●第6回

日時：9月3日 14:00~16:30 出席者：13名

場所：東京工業大学経営工学科会議室

テーマと講師：I S D N S時代に向けた企業情報ネットワーク 舟茂 弘(日本電気)

まず、企業情報ネットワーク利用者のニーズ・期待(インテリジェント化、オープンネットワーク化など)とネットワーク環境の変化により、第2世代企業上違法ネットワークの時代になりつつあることを指摘した。

ついで、第2世代対応の具体的内容について説明し、これを戦略的に活用する方法について具体例をまじえながら整理した。最後に、チーフ・インフォメーションオフィサーと情報ネットワークマネジメントについて述べ、企業情報ネットワークは企業経営の知的戦略ツールであると締めくくった。

●最適化とその周辺●

●第14回

日時：9月5日(月) 9:20~17:20 6日(火) 9:20~16:30

場所：京大会館101号室 出席者：96名

テーマと講師：東京で開催された第13回国際数理計画シンポジウムに出席した国外の研究者をまねき、“MP

Days in Kyoto”と銘打って、2日間にわたる研究集会を行なった。講師は以下の26名であった。

M. Overton, S. Koh, V. H. Nguyen, J. -L. Goffin, A. Griewank, A. Auslender, D. -Z. Du, J. Gwinner, M. M. Kostreva, S. Martello, D. Hochbaum, P. M. Camerini, E. Balas, B. Korte, N. Maculan, Y. Crama, J. Tind, S. Poljak, J. Blazewicz, Toth, R. E. Burkard, P. Hell, B. Simeone, Schrader, R. Horst, Hoang Tuy(講演順)。

●社会分析●

●第2回

日時：9月10日 14:00～17:00

出席者：17名 場所：東京都勤労福祉会館

テーマと講師：英国病克服の現状をみる 吉川武男(横浜国大)

英国エジンバラ大学1年間留学の体験をもとに、英国

病発生の要因およびその対策の現状について発表した。結論するところ、社会システムを構成する人間の価値意識が、社会活力や企業活力に大きく影響していることが実証できた。

●システム・ダイナミックス●

●第5回

日時：9月16日(金) 17:45～20:15 出席者：17名

場所：明治大学駿河台校舎研究棟第三会議室

テーマと講師：(1)「BASICによるSDモデル・シミュレーションについて」椎塚久雄(工学院大学)

システムの構成, 操作法, 基本規則等について, 具体例によりながら, 詳細な報告がなされた。

(2)「1988SD学会国際会議報告」講師同

7月5日～8日, 米 La Jolla, California で開かれた国際会議(出席者20カ国139名)の模様が報告され, 特に国際通信ネットワーク SDNET が紹介された。

国際委員会

APORS 論文誌 “APJOR” へのご投稿とご購読の依頼

皆様ご案内のとおり、1985年から太平洋地区のOR学会連合(APORS=Association of Asian-Pacific Operational Research Societies)がIFORSの下部機関として発足し、日本のOR学会がその幹事役を努めることとなり、若山邦紘教授(法政大学)が事務局長に就任されています。

APJOR (Asia-Pacific Journal of Operational Research) は、その Official Journal という性格

から、APORS 加盟各国から Board of Editorial Advisers へ参加することが求められており、日本OR学会からは若山氏のほかに森村英典会長、茨木俊秀教授(京都大学)が参加されています。これからも同誌を一層もり立ててゆくため、論文の投稿・雑誌の購読についてご協力をお願いいたします。

お問合せは学会事務局へどうぞ。

(Tel. 03 (815) 3351)

1989年 (vol.34) オペレーションズ・リサーチ 特集予定

1月号 投資と金融のOR

2月号 情報ネットワーク

3月号 内点法(仮)

4月号 階層化意思決定(仮)

その他以下のような特集を企画中

気象と経営(仮), 自己組織化(仮), イノベティブマネジメント(仮)